



# 東京の産業と教育

No. 162

## 会 の 目 的

本会は産業界、教育界及び行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

## 職業教育にかかわる人材の確保と産学連携

学校法人小山学園 理事長

山本 匡



今日の日本においては、あらゆる産業において生産性の向上が求められており、中でもDX化にかけける期待は大きいものがあります。中高生を中心とした現代の若者は、子どものころからデジタル術に慣れ親しんだデジタルネイティブのいわゆる“Z世代”であり、今後の日本のDX化にも大きな役割が期待されます。一方で、産業発展の連続性という視点からは、これまで我が国が培ってきたさまざまな産業分野における技術や技能の伝承や、仕事に対するマインドや価値観の継承も必要であると考えられます。

東京は日本経済の中心ですが、職業教育においても日本の中心です。都立の専門高校をはじめ国公立、私立の大学や高等専門学校、そして専門学校をはじめとする専修学校が、次代を築く多くの若者の教育を担っています。それは単に技術や技能を教授するということだけではなく、先にも述べたマインドや価値観、更には先人がこれまで築き上げてきたmade in Japanのプライドの継承についても重要な役割を担っていると考えます。

ここでその技術やマインドの伝承者は誰が担うのかを考えてみると、最も主導的な役割を担うのは各教育機関の現場の先生方ということになります。現場の先生方には、単に技術や技能だけではなく、その背景にある理論や系譜といったもので幅広く伝えることが期待されています。

一方で、その現場の先生をどのように養成していくべきかについては、まだ十分に議論が尽くされていないように思います。学校教育の現場には専門の技術・技能に加え、生徒や学生のメンタルのケアを含めた多種多様な知識やスキルが必要になりますが、それを学ぶ場が極めて少ないと感じます。また実社会の産業界との接続についても課題があります。産業界が求める人材を教育機関が輩出できているか、また将来の産業構造の変化を見据えた準備が出来ているかを常に確認する必要があります。更に言えば、未来を担う子どもたちに日本の産業に興味関心を持ってもらい職業意識を醸成することも課題の一つです。

そういった側面から考えてみると、本東京都産業教育振興会の活動は、まさにそれらの問題を解決できる可能性を有した極めて有意義な存在であると考えます。企業会員54社、高校・高専81校、短大・専修学校39校、中学校等439校、個人会員14名、そして東京都教育庁が、立場を超えて同じテーブルで東京の職業教育の未来を語り合うことは、あらためて考えてみますと素晴らしい取り組みであると再認識致します。先に述べた職業教育にかかわる人材の確保という喫緊の課題についても、本会の活動の中で解決の糸口が見つけられるのではと考えます。今後とも積極的に交流させて頂きたく宜しくお願い致します。

## 会報第162号のコンテンツ

1p ; 巻頭言 2p ; 実践報告 3p ; 実践報告 4p ; 高校生からのメッセージ  
5p ; 卒業生からのメッセージ 6p ; 産業界からのメッセージ  
7p ; 産業界からのメッセージ 8p ; 総会等の報告・事務局から



## 【実践報告】

# 食品科醸造分野における探究型学習の取り組み

東京都立農産高等学校

指導教諭 田中 智弘

## 1 はじめに

本校は東京の東部地区唯一の農業系高校である。葛飾区西亀有に位置し、園芸デザイン科、食品科の2科があり、1学年4学級、全校生徒420人の規模の学校である。私は、平成28年度、食品科に着任し、「総合実習」・「課題研究」の醸造分野担当になった。本稿では、授業と授業外の活動における探究型学習の実践について報告する。

## 2 探究学習に関する取り組み

醸造分野を担当して、取り組んできたことは、第1に授業における興味・関心を高めることである。「総合実習」の「製麹」を例に説明する。製麹とは、麹をつくることであり、本校では、機械製麹法により、米麹を製造している。製造した麹を使用して「手前みそ」「かめさん味噌」（本校ブランドのみそ）を仕込む。製麹は、蒸煮米にコウジカビを繁殖させる4日間の実習である。マイクロスコープとICT機器を接続し、米の表面を拡大し、画面に映し出すことで、米の表面に起きている微生物の働きを視覚的にとらえることを行っている。蒸煮後の米と床もみ後の米の表面の違いやコウジカビの菌糸が伸びている様子、破精まわりや破精込みの様子が観察できる。実習の場で全員が同じ画像を見ることでイメージの共有化を図ることが可能である。生徒の端末やスマートフォンで共有することもできる。生徒の興味・関心が非常に高まった。自身のSNSのホーム画像に使用している生徒もいるほどである。

第2に主体的に学び、探究する学習である。「総合実習」「微生物利用」をはじめ専門科目で興味・関心を高める中で、学習内容をさらに深めていく。「課題研究」では各自が課題を見つけ、テーマを設定し、解決に向けた研究をする。「米麹の改良」、「カツオブシカビの分離」、「雑穀麹の製造」「みその加工品の開発」などが行われている。これらの指導に関しては、「側面からの指導」「一緒に筋道を考えること」を方針にしている。課題発見から解決策を探り、調査、研究を行いまとめることを生徒自らが計画し、解決している。教員の知識・技術の範囲を超えて様々な調査を行い、実験・実習に挑戦する姿が見られる。

## 3 探究学習の発展型として

関連分野の部活動として「醸造部」「応用微生物部」があり、学んだことを活かして研究活動を行っている。平成29年度より、みそに関するプロジェクト活動をスタートさせた。高校生夕張キャンプ、学校農業クラブ関東大会プロジェクト発表等に出場し、日頃の研究成果を発表することができた。平成30年度には「農産高校のみそカレー」を開発し、OEMにより企業と連携し製品化、販売することができた。

令和2年度からは、「かめさん味噌」の中に棲息する酵母の分離と同定を行い、酵母の特性を解析することで、おいしさの秘密を探っている。この研究は東京都教



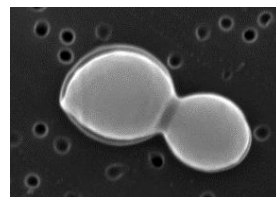
かめさん味噌

育委員会の理数研究校の研究にも指定されている。

食品や微生物を扱う楽しさや難しさを学び、科学的な思考を身に付け、責任感を育んでいる。これらの活動をとおして、農業高校生として光るものを手に入れ、それを強みとして将来を切り開いていく。課題発見、解決能力を培い、PDCAサイクルを活用できる人材となる。卒業後も多くの生徒が関連分野に進学、就職しており、高校時代の学びが大きく役立っているとの声が多く寄せられている。探究型学習は、生きる力の基礎となる能力を形成させているといえる。

## 4 まとめ

生徒自らが学びたい内容を深めていく活動こそが「農業高校の時間」であると私は考えている。そのような時間や場所の提供、生徒の力を伸ばすための指導力が農業教員にとって最も必要なものであると感じる。今後も授業研究や教材研究を行い自身の指導力の向上を図るとともに、若手教員への指導技術の継承の場を積極的につくっていききたい。



酵母（電子顕微鏡写真）



## 【実践報告】

# 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）下の看護教育 ～ 地域に根付いた活動を目指して ～

愛国高等学校 看護科部長 高村 幾代



## 1 はじめに

「親切正直」を校訓に掲げ創立 84 年を迎えた学校法人愛国学園が経営する愛国高等学校は、昭和 41（1966）年に准看護師 3 年課程の衛生看護科・昭和 55（1980）年に看護師 2 年課程の衛生看護専攻科を設置し、東京都でただ 1 校、全国でも 98 校のみの看護科のある高等学校として優秀な看護師を輩出しています。

本校では、新型コロナウイルス感染症の流行そして時代の要請に合わせた新カリキュラム導入と、高等学校看護教育への期待の高まりと責任の重さを痛感しながら教育活動を行い、令和 3 年度第 111 回看護師国家試験・東京都准看護師試験ともに在籍者全員受験・全員合格（合格率 100 パーセント）を達成しています。



## 2 コロナ影響下での看護教育

令和 2 年から続く新型コロナウイルス感染症が拡大・縮小を繰り返す中ではありましたが、対人関係を築く経験や細やかな看護技術指導のため、少人数のクラス編成をして感染症対策を徹底し、休業要請を除いてすべての期間で対面授業を行いました。また通達により臨地実習が中止となった際は、臨地と同様のクオリティーを目指した学内演習を実施しました。この学内演習では PC 連動のモデル人形等を使った「シミュレーション」と事例に沿った「ロールプレイング」等を繰り返しました。各グループで事例展開をし、計画した援助を看護師・患者の立場で実演発表して互いに評価し合うことで技術・知識を身に付けていきました。さらに実習施設とのリモート学習も行い、大学病院からは手術室や ICU の概

要説明、老人保健施設との事例検討、訪問看護ステーションでは DVD を使用しての訪問の様子の説明とさまざまな工夫を凝らしました。実習指導の方々も現場での状況を何とか伝えたいとの思いで丁寧な対応をして下さいました。

厳しい状況下において、江戸川区医師会と学校医のご理解ご協力により希望する看護科生徒に対し早期に校内での新型コロナワクチン集団接種を実施、病院や諸施設が実習を受け入れて下さってからも生徒や実習先の安全を最優先とし、ご家庭と連携して日常生活も含め慎重な行動を取るよう指導しました。

## 3 江戸川区の要請を受けて

去る 1 月 30 日、江戸川区の健康部長より本校校長へ新型コロナウイルス感染症の感染急増に伴う出勤の打診がありました。准看護師資格を取得している衛生看護専攻科の生徒に対し自宅療養者の電話対応に協力して欲しいという区長の要請に即応し、2 月 1 日から 2 月 28 日まで 1 日 10 名程度、現場の保健師の指導を受けて業務に携わりました。看護対象である自宅療養という不安な状況の方々の声を聞いて誠心誠意対応するということは看護学生にとって貴重な経験であり、帰校後はさらに意欲的に学習に励むようになりました。

## 4 新カリキュラムを導入して

10 年ぶりのカリキュラム改正で、複雑化するケアニーズに対応できる能力を養うことが求められています。特に名称が変わった地域・在宅看護論においては、地域と連携した防災訓練・区民まつりでの血圧測定、健康サポートセンターや訪問看護ステーションでの実習を通じて地域の方々の健康維持に対する学びを深め、地域社会に貢献できますよう生徒と共に歩んで参ります。



## 在校生からのメッセージ INFINITY

### 東京都立葛西工業高等学校 機械科 2年 伊藤 綾花

私が葛西工業高校で学んだことは2つあります。  
1つめは、資格取得で、2つめは、人間関係についてです。

初めに、資格取得をすることについてです。葛西工業高校では通常の授業のほかに資格取得のための勉強をすることがあります。そして、希望者は土日や夏休みにも資格をとりにいくことがあります。なので、職業や将来の夢に役立つ資格をたくさん取ることができます。私は、中学生の頃は資格や検定試験をあまりとっていませんでした。なぜなら、資格を取るということをあまり重要視していなかったからです。しかし、高校1年生の間に資格取得をすることで、将来多くのことに役立つことを学び、たくさんの資格を取ることができました。そして、機械科の実習の授業で行った、アーク溶接などの資格も取ることができ、良い経験をとることができました。

次に、人間関係についてです。葛西工業高校では、実習の授業で、生徒同士で協力して作業をする授業があります。実習は危険なこともあるので、良い人間関係を作らないと安心して作業をすることができません。私は、授業中に周りの人と話したり、部活動や

委員会の仲間と会話をしたりすることで、いつの間にか人と会話をする機会が多くなっていました。そして、コミュニケーションをとることによって、楽しい学校生活が送れるようになることを学びました。

いま、資格と良い人間関係を得ることで成長していることを実感しています。また2つのこと以外にも、高校生活ではたくさんのことを学びました。これからの1年と半年の学校生活でも継続して多くのことを学んでいきたいです。そして、社会人になったときに活かせるようにしたいと考えています。



## 在校生からのメッセージ INFINITY

### 東京都立赤羽北桜高等学校 福祉学科介護福祉科2年 後藤 華歩

私は現在、赤羽北桜高等学校の介護福祉科で介護福祉士の国家資格を取得するために学んでいます。この学校に入学した理由は、中学生の時から福祉に関する職業に興味があったためです。この科で福祉を学びたいという同じ目的を持ったクラスの人達と授業や実習、課題等で分からないところや難しいと感じたところは、互いに考え教え合い協力しながら取り組んでいます。

授業では、人体の構造や機能、介護保険で可能なサービス内容についてや、コミュニケーションの取り方、認知症や障がいについて知り、より深く理解するために様々なことを学んでいます。また、実技については、実際に介護の現場で働いている方々が指導をして下さることもあり、ベッドメイキングから始まり、衣類の着脱、車椅子への移乗と移動方法、おむつのつけ方、外し方等を学びました。また、介護福祉科では、夏休みに必ず施設での実習があり、1年生のときには高齢分野と障がい分野の2つの通所型施設で実習をさせていただきました。そこで施設を利用している方々とコミュニケーションを取り、レクリエ

ーション活動や送迎等に参加させていただきました。

実習中、特に印象的だったのは、職員の方々の1つのケアにかかる時間が短く正確で一切無駄がないことでした。そしてそれを可能にしているのは、基本的な技術を完璧に身につけているからこそ出来るのだということを教えていただきました。そのため今年の実習は始まる前に今までに学んできたことをまとめ、存分に復習して基礎を固めてから臨みたいと思います。そして、介護福祉科で学んだことを将来、福祉に関する仕事で生かしていきたいと思います。





## 卒業生からのメッセージ BEYOND

東京都立大田桜台高等学校 令和3年度卒業  
産業能率大学 経営学部経営学科 廣木 風香

私が都立大田桜台高校に入学した当時、「ビジネスコミュニケーション科」であることを分かった上で入学したものの、他の普通科の高校と「どう違うのか」「何が強みであるのか」がよく理解できていませんでした。ビジネス科目や英語の授業の多さでしか違いを見つけられていなかったため、不安な気持ちやマイナスな考えがあったことも確かです。しかし、そんな気持ちや考えは大田桜台高校ならではの勉強により高校1年生の夏頃には払拭されていました。今では「ビジネスコミュニケーション科」だからこその特徴あるビジネス科目や英語の学習により、自分自身が大きく成長したことや目指すものが見つかったと確信しています。



現在通っている大学に進学したいと思い一心に進

路活動ができたのは、大田桜台高校での学びを通して学びたいことやどのような能力を身につけたいのかが明確にできたためです。私は将来、エンターテインメント業界でプロモーションの仕事に携わりたいという夢を持っています。

大田桜台高校では1年次からキャリアデザインという授業がありました。そのおかげで、3年間という長い時間をかけて将来のことをしっかりと考えることができました。「プレゼンテーション」や「ビジネスモデル研究」などの授業での、グループワークやパワーポイントの作成、実際に大勢の前でプレゼンするなどの実践的な学びは私に大きな影響を与えてくれたと実感しています。もっとプレゼンテーション能力や柔軟な発想力などを高めたいと気づくことができたのもこの授業のおかげだからです。

都立大田桜台高校で明確にできた自分の目標を目指して、日々身に付けたい知識や高めたい能力のために努力を続けていきます。

## 卒業生からのメッセージ BEYOND

香川調理製菓専門学校 平成30年度卒業  
香川調理製菓専門学校 実験実習助手 斉藤 瑞穂

私は、高校卒業後、幼いころから夢にしていた調理師になる為に香川調理製菓専門学校に進学しました。入学後、授業の環境であるインターンシップで三か所のお店で研修させていただきました。調理師として現場で働き現場の仕事や雰囲気を肌で感じる事ができました。また、学校生活では料理の基礎や食に関する歴史、公衆衛生、栄養などを勉強しながら、挨拶や礼儀に関してもご指導いただきました。



卒業後は、インターンでお世話になった日本料理店に就職させていただきました。就職後感じたことは、研修の時とは違って労働時間が想像よりも長く、仕入れや売り上げ等、料理以外の事も仕事の一部になっていたのが大変でしたが、大変な事以上にお客様に「美味しい」と言ってもらえることにやりがい

感じ3年半、働き続けることができました。また、先輩を指導するという経験もした後、もう一つの夢であった母校に調理助手として戻ってきました。

私は調理師を目指して学生生活を送っていた中で、もう一つできた調理助手として働くという夢を叶えることができました。調理師として現場で働いた時に感じたのは、学校生活で学んだこと全てが現場では当たり前に使われているので、学校生活の中で基礎をきちんと身に付けた方がいいと思います。そして、夢や目標を持って日ごろから学ぶことが大事だと思います。もしかしたら学生生活でも社会に出た時でも、周りとは比べられ、嫌な思いをするかもしれませんが、ですが、学生の時にできた友達や学ぶことを大切に、その存在を忘れないでください。時には愚痴を言い合う事も大切です、自分だけが大きな思いをしている訳ではないと感じ、それがやる気になっっていく事もあります。そして、自分が決めたことをやり続け、夢を諦めないで欲しいと思います。そして、残りの学生生活を全力で楽しんでください。

## 産業界からのメッセージ 「頑張る東京の産業界」

株式会社箸勝本店 専務取締役 宮本 敏治  
〒101-0021 千代田区外神田 3-1-15 TEL. 03-3251-0840

### 【箸考「食と口の橋の意」】

割り箸は自然破壊の温床と言われ、食卓や飲食店からも敬遠されがちです。しかし、木の自然素材を生かしたお箸は、日本人にとって、口元に一番近い大切な食器なのです。

日本料理が優れているのは、食材はもちろんのこと、その盛り付けや、箸を含めた食器の美しさなど、食の総合芸術だからこそだと思います。

しかし、最近よく目にする日本人の箸使いは何とも情けない限りです。偶に街のお蕎麦屋さんなどで見かける、普段、箸を使用しない外国人の方が、余程上手に箸を使っています。日本人として恥ずかしい限りです。世界が近くなりつつある昨今、あえて老若男女問わず、日本人である意味をもう一度問い質してみても良いのではないのでしょうか。

日本国産の杉や檜等の素材で作られたお箸を、改めて見直してみたいかがでしょうか？ 杉や檜の割り箸は、元々、間伐材や建築物に使用された木材の端

材を利用したものなのです。いわゆる、廃棄すべき素材を有効利用する究極のエコともいえるのです。次代を担う若い人たちに願いたいのは、今話題になっている、環境破壊を起こすプラスチック製品を無くすことに血眼になるより、昔から生活するために必要不可欠な自然素材のものを、慈しみ育て欲しいということです。

人が生活する上で、自然の産物を利用することは致し方ありません。ただ忘れてはならないことは、無駄な贅沢や無闇な自然破壊を戒めることだと思います。使った自然はまた戻す。計画的な伐採と植林を上手に繰り返していけば、人はこの地球上で大自然と共存可能であるはずで、原点回帰、創意工夫の物造りの日本を再構築したいものです。



## 産業界からのメッセージ 「新会員企業の紹介」

ダイヤユーキ株式会社 代表取締役 鈴木 総一郎  
〒125-0053 葛飾区鎌倉 4-33-7 TEL. 03-3671-2181

### 【会社の概要】

弊社はアクリル樹脂の原材料、製品を主力として製造・販売をしています。コロナ禍において飛沫感染予防のツールとしてアクリル板が様々な場所に設置されています。業界の一員として社会のお役に立てることは、喜ばしいことです。

昨今、プラスチックは環境に対して様々な負荷を与えるという理由で、使用を控えるべきという声が強まっています。しかし、多種多様なプラスチックは、用途選択や不要品の回収・再生などを適切に行えば、持続可能な社会に十分貢献できると、私は思っています。高機能で環境負荷のない新素材も開発されています。

アクリル樹脂は透明性や耐久性に優れ、「プラスチックの女王」と呼ばれていますが、表面が傷つきやすい、有機溶剤に弱いなどの短所もあります。また、弊社の主力商品であるアクリルパイプや棒は、独自にスペックを決定して市場に提供し、その特性は全て情報開示しています。これらは大手企業は製造していませんので、巨大なプラスチック業界の中では隙間を埋める特殊な製品です。

### 【メッセージ】

私は他業界で12年働いた後、それまでのキャリアと縁の無い現在の仕事につきました。当初は不安でいっぱいでしたが、アクリル樹脂の特性を知るとともに深く関わることとなりました。

皆さんが将来どんな仕事に取り組もうとも、その製品のみならずご自身の長所・短所を認識し、継続的に努力を続けていけば、必ず成果は得られます。現時点で取り組みたいことが明確でなくても、また、挫折を経験したとしても、世の中には必ず「スキ間」があって、あなたにあった職業や仕事が見つかります。努力を続けていきましょう。共に。





## 産業界からのメッセージ 「新会員企業の紹介」

### 有限会社高橋木箱製作所

代表取締役 嶋田 貫一

〒124-0022 葛飾区奥戸 2-7-7

TEL. 03-3692-5111

#### 【会社の概要】

弊社は、各種プラント、精密機器、産業機械などを安全に輸送するため木箱梱包会社として昭和33年に創業し、長年の経験から他社に先駆けコンピューターソフトを導入し、梱包見積・設計システムを構築、この実績を踏まえてソフトウェア事業を開発、さらに本業の梱包・包装技術を活用してツーバイフォー住宅パネルの工場生産へと事業を進化させてきました。最近の新事業として環境問題（SDGs）の取組みとして、北海道日高町に約800ヘクタール（東京ドーム171個分）の社有林を取得し、社内木材供給とJクレジット化を推進しており、社会に貢献できる会社を目指し努力しておりますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### 【メッセージ】

弊社は創業以来、一貫して「安全第一」「お客様第一」を経営の基本に置いています。「安全第一」には、お客様から発注頂いた製品の安全を守ることと、作業の安全を守るという二つの意味があります。「お客

様第一」には、お客様に対しての感謝の気持ちが一番大切であるという想いが込められています。どんなに小さな会社でも事故を起こさないこと、仕事を頂けることへの感謝の気持ちを常に忘れない会社こそが一流であると考えています。

これは皆さんのこれからの将来においても同じことで、自分の人生に対する誇りと責任、相手に対する感謝の気持ちが自然に持てる一流の人となって成長されることを心より期待します。



## 産業界からのメッセージ 「新会員企業の紹介」

### 株式会社坂井電気

代表取締役 坂井 和久

〒124-0023 葛飾区東新小岩 2-22-1 TEL. 03-5698-6426

#### 【会社の概要】

1978年に設立した電気通信工事業、電気工事業、電気定期調査を行う会社です。本社は葛飾区、支店は埼玉県さいたま市、千葉県佐倉市にあります。

主にケーブルテレビの工事や、ご家庭や企業などの電気設備の点検や工事を行っています。

社員のほとんどが、異業種未経験からの入社です。社風は、工事方中心というより、オフィスワークもする現場スタッフと事務スタッフが、電話やLINEなどで、連絡しあい協働して売上を生んでいます。

ケーブルテレビの工事は、高所作業車の操作に資格が求められます。電気設備点検は、電気工事士の資格が必要ですが、資格取得は、必要に応じて貸付をしたり全面的に支援しています。事務スタッフも、顧客のシステム入力を進めながら、所内の美化や観葉植物のケアなど、幅広い働き方をしてくれています。

また年に2回の賞与の他に、達成手当という期間利益達成時に算定する全社員還元制度が年に3回あります。これは1回で平均賞与額を上回ることもあ

ります。会社の利益というのは、あまり溜め込まず、当社を選んでくれた社員に感謝還元していきたいと思って経営しています。

#### 【メッセージ】

当社は企業様との直接取引において長期の信頼関係を築いています。経営理念は『社員のしあわせ』です。やる気や能力もある残念な人（もったいない人）をなくすため、それぞれの潜在力を発揮できるように考えます。



# 令和4年度 総会・産業界会員功労者表彰・講演会 報告

## 【総 会】

令和4年度総会及び講演会を6月28日(火)全商會館において、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催しました。

総会の開会にあたり、西澤宏繁会長、常任理事の村西紀章都立学校教育部長から挨拶がありました。続いて、来賓の公益財団法人産業教育振興中央会専務理事の岩井宏様、東京都公立高等学校長協会副会長の守屋文俊様(東京都立中野工業高等学校長)、東京都中学校長会会長の山口茂様(国立市立国立第三中学校長)から御挨拶を頂きました。

次に、事務局から3件の報告、会則の一部改正案など7件の議案を提案し、審議の結果、全議案とも原案とおり承認されました。



今年度の役員を以下に紹介します。

- 会 長 西澤 宏繁(留任)  
(ForeVision 株式会社 取締役 監査等委員会委員長)
- 副 会 長 金子 昌男(留任)  
(株式会社カナック企画 相談役)
- 副 会 長 小林 治彦(留任)  
(東京商工会議所常務理事)
- 副 会 長 岡本 裕之(新任)  
(東京都立江東商業高等学校長)
- 理 事 長 浜 佳葉子(新任)  
(東京都教育委員会教育長)
- 常任理事 村西 紀章(新任)  
(東京都教育庁都立学校教育部長)
- 常任理事 臼井 宏一(新任)  
(東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長)
- 常任理事 吉田 直子(新任)  
(東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長)
- 常任監事 長沢 太士(留任)  
(東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理)

## 【産業界会員功労者表彰】

議事終了後、産業界会員功労者(永年会員)を表彰しました。本年度の表彰は、次の2社です。

株式会社 ツバサ・翼学院グループ

株式会社 箸勝本店

## 【講演会】

総会終了後、引き続き講演会を開催しました。上智大学総合人間科学部教育学科教授(中央教育審議会教育課程部会委員) 奈須正裕氏を講師として、「令和の日本型学校教育の構築」という演題で行われました。講演内容は、3月上旬発行予定の会誌「東京の産業教育」第60号にて紹介いたします。

## 令和4年度「作文コンクール」作品募集

- 主 催 東京都産業教育振興会
- 後 援 東京商工会議所
- 応募資格 会員校に在籍する生徒・学生
- 応募締切 9月12日(月)
- 表 彰 入選者には表彰式(12月16日東京商工会議所)において、本会より賞状並びに賞品を授与します。  
選外者にも参加賞を贈呈します。
- ※詳しくは、ホームページを御覧ください。

## 事務局より

令和4年度「会報」第162号をお届けいたします。会報は昨年度から引き続き、年2回発行する紙面版の会報と月1回発行する会報電子版の二本立てとし、更に広報に努めます。

発行に際し、御協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。皆様からの御感想、御意見などをお寄せください。

発行  東京都産業教育振興会

住所 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1  
東京都教育庁都立学校教育部  
高等学校教育課内

電話 03-5320-6729

ホームページ <https://www.tosanshin.org/>

印刷  教育庁サポートオフィス  
パレット